

令和 8 年 8 月 3 1 日	病 害 虫 発 生 予 報 9 月 号	茨城県病虫害防除所
---------------------	------------------------	-----------

農薬の誤飲、盗難に注意！適切な農薬の保管管理に努めましょう

～令和 8 年度茨城県農薬危害防止運動期間（6/15～9/14）～

< 目 次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病虫害】

果樹共通：果樹カメムシ類
(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ) 1

秋冬ネギ：ネギアザミウマ 1

共通害虫：シロイチモジヨトウ 2

【その他の病虫害】

大豆、サツマイモ、ナシ、ブドウ、抑制トマト、秋冬ネギ、夏秋ナス、共通害虫 . . . 3

○サツマイモ基腐病の防除対策（収穫期） 4

II. 今月の気象予報 5

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの
「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>) で確認することができます。

詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。Tel :0299-45-8200

ホームページでは病虫害・フェロモントラップ・農薬関連情報がご覧いただけます。

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>



※病虫害の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病虫害の防除や農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病虫害防除所等の指導機関にお問い合わせください。

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

果樹共通

1. 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

〔予報内容〕

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並	県下全域

〔予報の根拠〕

- ① 8月下旬現在、ナシ園における果樹カメムシ類の被害果率（本年値 0.1%、平年値 0.2%）、発生地点率（本年値 24%、平年値 18%）ともに平年並である。
- ② 直近1か月間（7月26日～8月25日）の太子町の果樹園内に設置したフェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数（本年値 4,838 頭、平年値 469 頭）は平年より多い。
- ③ 直近1か月間（7月26日～8月25日）の笠間市の果樹園内に設置した予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数（本年値 3,075 頭、平年値 11,050 頭）は平年より少ない。
- ④ 直近1か月間（7月26日～8月25日）のかすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数（本年値 149 頭、平年値 882 頭）は平年より少ない。

〔防除上注意すべき事項〕

- ① カメムシ類の発生時期や発生量は地域やほ場によって異なるため、定期的にはほ場全体を観察し、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。
- ② 薬剤防除の際には、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 今後、果実が肥大するカキやリンゴのほ場では、カメムシ類が飛来するおそれがあるので注意する。

秋冬ネギ

1. ネギアザミウマ

〔予報内容〕

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

〔予報の根拠〕

- ① 8月下旬現在、被害度*（本年値 48.9、平年値 39.1）は平年並～やや高く、芯葉の被害株率（本年値 100%、平年値 90.0%）は平年より高い。

※被害度：食害の程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

〔防除上注意すべき事項〕

- ① 雑草にも寄生するため、ほ場周辺の除草を徹底する。
- ② 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用して丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

共通害虫

1. シロイチモジヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 直近1か月間（7月26日～8月25日）のフェロモントラップへの誘殺数は、つくば市で平年並～やや多く、笠間市で平年並である。
- ② 8月下旬現在、秋冬ネギ、大豆のほ場で発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 雑草にも寄生するため、ほ場周辺の除草を徹底する。
- ② 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ③ 幼虫の齢期が進むほど薬剤に対する感受性が低下する。また幼虫が作物内に食入するため、薬剤がかかりにくくなる。このため、食入前の若齢幼虫のうちに防除を行う。
- ④ 薬剤散布は、薬剤が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
大豆	サヤムシガ類	発生量：多い	8月下旬現在、平年より多い発生である。
	吸実性カメムシ類	発生量：やや多い	8月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
サ イ モ マ	チョウ目幼虫	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
ナ シ	黒星病	発生量：少ない	8月下旬現在、発病葉率は平年より低い。今後、秋型病斑の発生に注意し、秋季防除を行う際は、徒長枝に薬液が十分かかるように薬剤散布を行う。
	クワコナカイガラムシ	発生量：多い	8月下旬現在、平年より多い発生である。秋～冬期にかけ、誘引バンドの設置による捕殺や粗皮削りを行い、越冬密度を低下させる。
	ナシヒメシンクイ	発生量：平年並	8月下旬現在、平年並の発生である。被害果を見つけた場合は、速やかに処分し、成虫の発生を防ぐ。
ブ ド ウ	褐斑病	発生量：多い	8月下旬現在、平年より多い発生である。病原菌の越冬を防ぐため、落葉処理を徹底する。
	べと病		
	さび病	発生量：平年並	8月下旬現在、平年並の発生である。病原菌の越冬を防ぐため、落葉処理を徹底する。
	晩腐病	発生量：やや少ない	8月下旬現在、平年よりやや少ない発生である。病原菌の越冬を防ぐため、罹病した果梗の切り残し、結果母枝、巻きひげ等は剪除し、適切に処理する。
ト マ ト 抑 制	黄化葉巻病	発生量：平年並	8月上旬現在、平年並の発生である。発病株はただちに抜き取り、適切に処分する。促成トマトの育苗において、媒介虫であるタバココナジラミの侵入防止対策を徹底する。
ネ ギ 秋 冬	黒斑病（葉枯病を含む）	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在、平年並～やや多い発生である。
ナ ス 夏 秋	アブラムシ類	発生量：やや多い ～多い	8月下旬現在、平年よりやや多い～多い発生である。
共 通 害 虫	オオタバコガ	発生量：平年並	直近1か月間のフェロモントラップへの誘殺数は、坂東市で平年並～やや多く、土浦市で平年並、筑西市および龍ケ崎市で平年並～やや少ない。
	ハスモンヨトウ	発生量：やや少ない	直近1か月間のフェロモントラップへの誘殺数は、筑西市で平年並、土浦市および鉾田市で平年よりやや少なく、龍ケ崎市で平年より少ない。

サツマイモ基腐病の防除対策(収穫期)

【収穫の準備】

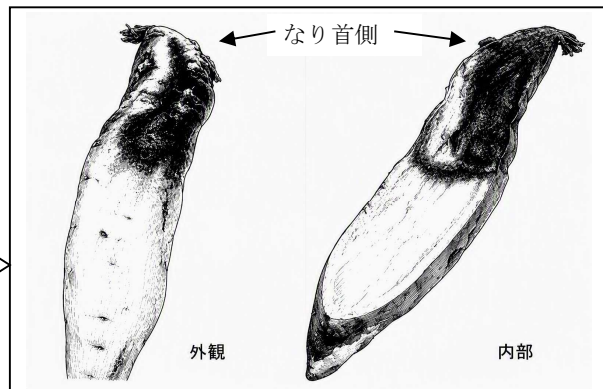
- ・使用するコンテナ等は、洗浄して付着した土を完全に落としましょう。
- ・収穫前に必ずほ場をよく観察し、
■生育不良 ■株元の黒変を伴う葉の変色 ■枯死株 等の異常がないか確認しましょう。

【収穫時】

- ・収穫したイモは、どこのほ場で生産されたものか後で追跡できるよう、ほ場名を記録しておきましょう。また、収穫したイモはほ場ごとに分けて管理しましょう。

- ◎イモのなりつるの黒変
 - ◎イモのなり首側からの変色・腐敗
 - ◎イモから芽が出ている（萌芽）
- これらがいないか注意しましょう。

基腐病に感染したイモ



- ・作業するほ場ごとに、農機具や長靴等についた土は良く落とし、水で良く洗浄しましょう。

疑わしい症状を見つけた場合

※収穫時に疑わしい症状を見つけた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センターまで連絡してください。

※普及センターが確認するまで、株の抜き取りは行わず、ほ場に入らないでください。

【次作に向けた準備】

- ・収穫終了後の残さ（イモ、葉、茎の残さ）はできるだけ持ち出し、適切に処分しましょう。
- ・収穫後は速やかに、ほ場を丁寧に耕うんし、残された残さを細かく粉碎しましょう。
- ・ほ場に停滞水が生じないように、排水対策（収穫後の耕盤破碎等）を行いましょう。

参考資料

サツマイモ基腐病の発生に注意しましょう
(茨城県農業技術課)



サツマイモ基腐病に関する遵守事項の見直しについて
(茨城県農業技術課)



Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 8 月 29 日から 9 月 28 日)

気象庁 (8 月 27 日 発表)

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
	気温	関東甲信全域	10	40	50
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。

< 1 週目の予報 > 8 月 29 日 (土曜日) から 9 月 4 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

< 2 週目の予報 > 9 月 5 日 (土曜日) から 9 月 11 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 30%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 9 月 12 日 (土曜日) から 9 月 25 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

予報に掲載の病害虫を防除する場合は、「茨城県総合防除計画」の別表 2—1 を参考に化学農薬のみに依存しない「総合防除」を心がけてください。

茨城県総合防除計画



農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類（FRAC コード、IRAC コード）の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。